

平旧城跡周辺 防災まちづくり活動ニュース

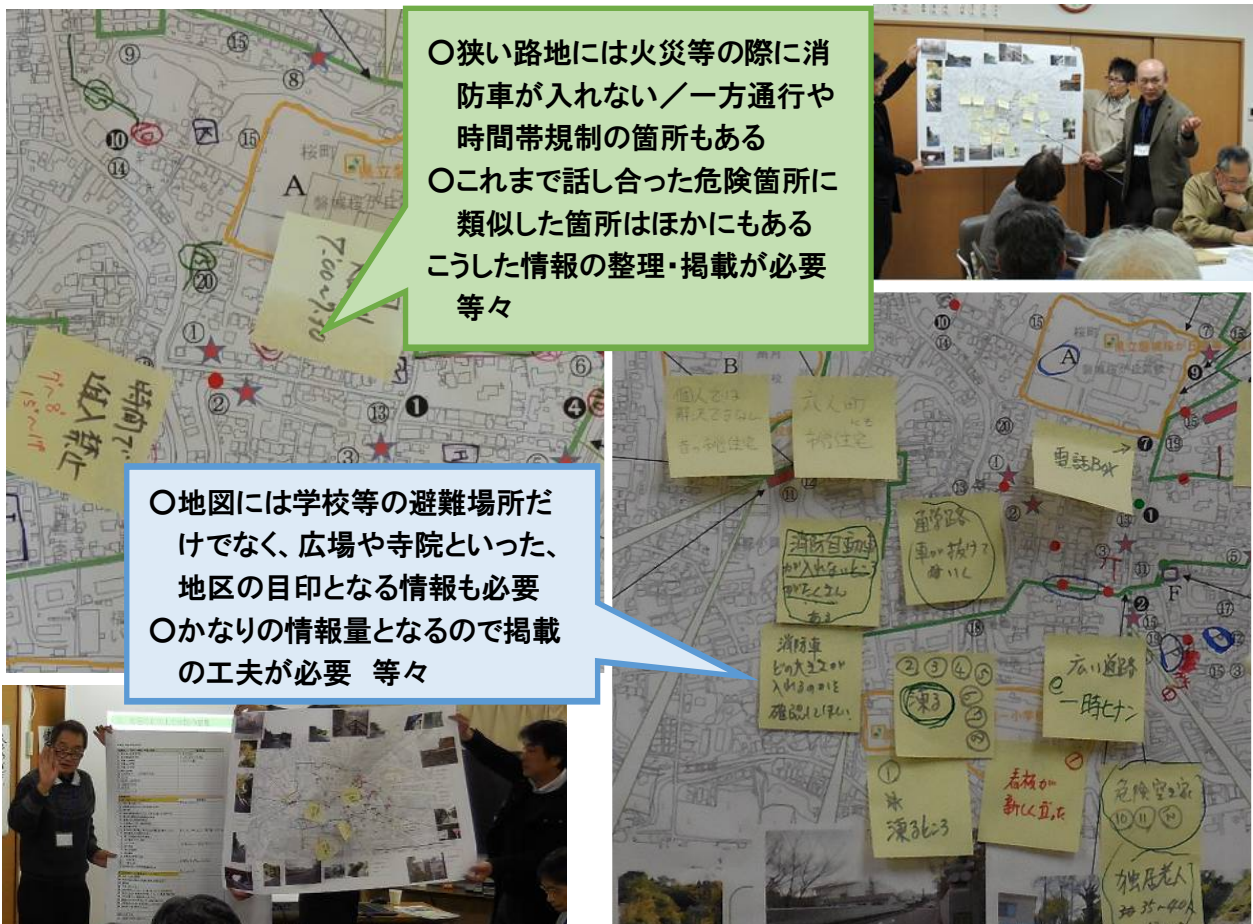
平成 28 年 1 月 発行 いわき市 危機管理課

自助・共助による防災力向上に向け、課題の点検などを行ないました (第4回防災まちづくりワークショップ)

平成 27 年 12 月 18 日 (木) 午後 7 時から、平 15 区・24 区・25 区・52 区の方々を中心とするメンバーで「第 4 回平旧城跡周辺地区防災まちづくりワークショップ」として、地区における防災上の課題などを点検しました。

今回は、21 名 (地区住民 17 名、福島工業高等専門学校の教員 1 名、平消防署 1 名、ほかに市職員 (営繕・危機管理の各所属) 4 名・コンサルタント 3 名) が参加しました。(「防災まちづくりワークショップ」と当日のプログラムの詳細は、ウラ面をご覧ください。)

2 グループに分かれて細かく点検、発表しました。【ウラ面も参照下さい。】



○狭い路地には火災等の際に消防車が入れない／一方通行や時間帯規制の箇所もある
○これまで話し合った危険箇所に類似した箇所はほかにもある
○こうした情報の整理・掲載が必要等々

○地図には学校等の避難場所だけでなく、広場や寺院といった、地区の目印となる情報も必要
○かなりの情報量となるので掲載の工夫が必要 等々

※参加された方々 (当日参加者受付名簿順): 鈴木政康さん、千葉壽茂さん・敏子さん、小出京子さん、松崎博さん、真木秀明さん、大和田裕子さん、加藤博久さん、櫻田憲央さん、黒木禮子さん、木澤光一さん、飯島正敏さん、相澤秀雄さん、中林則際さん、霜田宜久さん、鈴木康平さん、佐川康宏さん、富岡加津江さん、北島秀明さん

※参加者の総意により掲載

★ まちの防災情報点検(第4回ワークショップ)の内容 ★

○自助・共助による防災まちづくりの必要性を確認しました。→これからは、自助、共助による防災への取り組みが一層求められる背景が、いわき市より説明されました。【右図参照】

○まちの防災情報を確認し、地図にまとめていきました。(下写真はお話合いの様子です。オモテ面も参照ください)

○次回は、これまでの材料と今回の話し合いをもとに地区の防災情報満載の「ハザードマップ」を完成させます。

自助・共助による防災まちづくりの必要性(当日の市の資料のまとめ)

- 人口減少・少子高齢社会の加速化
 - 東日本大震災など想定外の災害の発生
- ⇒ハード対策、行政の防災対応力にも限界がある。

(公助だけではなく)『自助』『共助』が大切

『自助』 自分の身は自分で守る

『共助』 近隣が互いに助け合って地域を守る



福島県立いわき桜が丘高等学校の生徒も独自のハザードマップを作成中とのことで、参考・共有すべき情報がある。



住民の高齢化は防災上重要な視点だが、地図で示すというよりも地区全体に関わる課題である。

老朽家屋については、耐震性の問題もある。旧耐震基準が適用されていた約35年前より前の建築物が目安である。



次回の防災まちづくりワークショップの予定

※「防災まちづくりワークショップ」は、地区の住民のみなさんの話し合いにより、ハザードマップや計画づくりを進めるもので、平成27・28年度にわたり全10回行います。

※次回平成28年2月18日(木)は、これまでの検討をもとに、地区の防災情報満載のハザードマップを確認します。これからでも参加できますので、是非参加してみませんか。【申し込みは下記の連絡先まで】

回数	時期	取り組み
第5回	2月18日(木) 午後7時~9時	○ハザードマップの作成 ○2年目の活動計画の検討

※第6回以降は平成28年4月以降に、自助・共助・公助による課題への取り組みを皆さんと話し合っていきます。

◆防災まちづくり活動支援事業に関するお問合せは



いわき市行政経営部危機管理課：植野(うえの)、久野(ひさの)、藁谷(わらがい)
(電話 22-7551(直通))